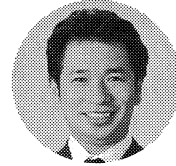


# 賃貸マンションの空きスペースで「飲む応援」

## ライフサポート復興を支援する会 売上げの一部を被災地へ



ライフサポート復興を支援する会 大関真悟理事長(37)

投資用不動産販売の日本クリード(東京都文京

区)の大関真悟CEOが理事長をつとめる「ライフサポート復興を支援する会」は、自動販売機の売上げの一部を、東日本大震災の復興支援金に充てられる「飲む応援」

事業をスタートした。これは、賃貸マンションのエントランスやビルの空いているスペース・敷地に、自動販売機を設置することで復興支援を行うことができるという

もの。地主やビルオーナー、賃貸マンションオーナーを対象に、設置や交換の提案を行っていく。ライフサポート復興を支援する会は、3・11の震災発生時より現在に至るまで、宮城県石巻市を

中心にラーメンの炊き出しボランティアを毎月継続して行っている団体。自動販売機の売上げの一部は、炊き出し等を行う際の食材や運搬費などの費用に充てられ、間接的に復興支援に取り組みることができるというわけだ。

自動販売機の設置に際し、事業主側の費用負担はない。1台からでもスタート可能だという。例えば1台設置し、月間で800本売れた場合、支援額は1本10円で月8000円。年間で9万6000円を支援することができる。



▶1本につき10円が被災地の復興支援に充てられる



▶賃貸マンションのエントランスや駐車場等、空きスペースを募集中だ

仮に5台設置した場合には、年間48万円が支援額となり、事業者の社会的認知度の向上や企業のCSRにつながる。支援金や支援の内容は同会の公式ホームページ内の月次報告にてすべて公開さ

れている。メーカーは、大手飲料メーカー6社から選べ、立地や属性にあわせて新商品やロングセラーなどを選択可能。小型機、大型機、薄型機などさまざまな機材も揃っている。設置後は、メーカー担当者が定期的な訪問し売上げ管理や代金回収、釣り銭補充、商品の詰め替え、空き缶回収、そして清掃などを行う。このため、オーナーの手間はかからない。

### 女性経営者

#### 空き家活用の

T&Tインターナショナル(神奈川県鎌倉市)の高田智子氏が会長を務める、建築・不動産関係で働く女性の会、「999会」は、第7回目となる会合を、9月9日、銀

東京厚生大学。知

坂省